**令和2年度社会福祉法人しいの木会事業報告　　資料①**

**◆法人事業報告**

　令和2年度はコロナの影響を大きく受けた1年となった。活動を制限されることが多く、また、日々変動する状況への対応に追われた。懸案事項の給水設備については、改めて市原市の水道事業課に問い合わせたが、助成金はないとの回答だった。水質の改善方法について検討を重ね、井戸自体に浄水器を付ける方法を取り入れることとした。コロナの感染が拡がる中、「事業の継続要請」が出されたこと、また、感染者が出なかったことで休業には至らなかった。感染予防のため利用を控えたいと希望する利用者については、特例措置の「在宅作業」が認められたことで、収入、利用率の落ち込みは見られなかった。菓子の売り上げについては、イベントの中止が相次ぎ、販売機会が激減したが、注文販売や新たな販路を開拓したことで大きな落ち込みはなかった。平均利用人数は昨年と比べ就労継続支援Ｂ型で0.8名増、生活介護で0.5名増となった。グループホームにおいては、2名が退所し、現在入所者は10名となっている。

　　　　　　　　　　　　（役員会等の実施状況）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 実施日 | 種別 | 参加者 | 決議事項 |
| 6月9日 | 理事会 | 理事6名/ 5名  監事2名/ 2名  会計責任者1名 | ・施設長の退任・就任  ・令和元年度事業報告および計算書類の承認  ・令和2年度事業計画および予算の承認  ・定款施行細則改定  ・給与・退職金規程13条改定 |
| 6月20日 | 評議員会 | 評議員8名/ 7名  理事2名  会計責任者1名 | ・平成元年度事業報告および計算書類の承認  ・令和2年度事業計画および予算の承認 |
| 11月25日 | 理事会 | 理事6名/ 4名  監事2名/ 2名  会計責任者1名 | ・第１回補正予算の承認  ・定款施行細則改定  ・給与規程改定 |
| 11月28日 | 評議員会 | 評議員8名/ 7名  理事2名  会計責任者1名 | ・第１回補正予算の承認 |
| 3月23日 | 理事会 | 理事6名/6名  監事2名/2名  会計責任者1名 | ・令和2年度事業報告の承認  ・第2回補正予算の承認  ・令和3年度事業計画の承認  ・令和3年度当初予算の承認  ・短期入所事業について |
| 3月27日 | 評議員会 | 評議員8名/7名  理事2名  会計責任者1名 | ・第2回補正予算の承認  ・短期入所事業について |

**◆シーモック事業報告**

令和2年度は、コロナの影響でイベント等が中止となり、販売や納品の機会が減ったが、注文販売や新たな販路を開拓することで売り上げにつながった。作業の効率化を図るため、土日を利用し菓子製造を行った。プチ・シーモックのあり方、新作業種については、引き続き検討課題としていく。生活介護は実習を経て、年度途中で1名、新年度から1名の入所につながった。

**◆各部署の報告**

1. 就労継続支援B型（定員40名・利用者48名）

就労継続支援B型の平均実利用は、　　　　　　　　　　※（　）は昨年の数

1日当たり　シーモック31.8名（31.8名）プチ・シーモック6.3名（5.5名）

　　　　　　　　　　　　　　　計38.1名（37.3名）

≪シーモック≫

1. 調理室（利用者12名）

利用者の異動で多少の増員となった。2グループより引き継いだ、いちじく乾燥作業や生地の仕分け等、作業種を増やしスキルアップにつながった。コロナの影響で、例年の繁忙期の注文がほとんどなかったが、注文販売等を行うことで、菓子製造量も増えた。新たな注文の取り方に戸惑いはあったものの、皆で協力し乗り越えることができた。

1. 袋室（利用者15名）

「成分表示法」に対応したラベルシールに移行した。シールのサイズが変わったことを機に、シール切り・シール貼り共に、より丁寧に作業に取り組むことができている。また、2グループよりクッキー詰めの作業を引き継ぎ、様々な注文に対応しながら行っている。

1. 2グループ（利用者14名）

衛生面で菓子の作業に携わることが難しい利用者が多くなり、今まで行っていたクッキー詰めとそれに伴う作業（シリカゲル入れ、テープ止め）を行わないこととした。受注作業とシュレッダー作業が中心となり、受注作業は月に2～3種類の仕事を受けている。他グループにも協力をお願いしている。また、体を動かす為、1時間程度の散歩に出る機会を設けている。

≪プチ・シーモック≫　（利用者7名）

シーモックの利用者1名の実習を行い利用となり、7月より利用者7名となった。10月から近隣スーパーの店頭での販売を始めたが、コロナの影響で1月から中止している。休みが続いていた利用者に、利用時間帯を変えることを提案し、通所に繋がっている。毎週末、グループホーム（ホームどんぐり・ホームたんぽぽ）にパンの納品をしている。

1. 生活介護（定員7名・利用者9名）

生活介護の年間の平均実利用は、1日当たり7.7名（7.2名）

男性6名、女性3名の計9名の利用者でスタートした。7月末で女性利用者1名が高齢者施設へ入所のため退所となった。9月から男性1名の利用が開始した。

活動内容はリサイクル作業（ シュレッダー ）を中心に、創作活動、近隣の公園散策を行った。また、健康維持のため、散歩、体操、踏み台昇降を行った。コロナで活動を制限されることもあったが、利用者のペースに合わせた個別の活動を提供した。

月1回のお楽しみ会では、季節に合ったメニューを提供するなど、利用者の楽しみ、励みとなった。日帰り旅行はコロナの影響で中止となった。

1. 相談支援

サービスの更新や新たなサービスを希望された時、アセスメント・モニタリングを行い、サービス等利用計画書の作成を行った。

令和2年度は計画書の作成数は延べ62件、モニタリング実施数は延べ116件だった。

（現在相談支援を受けている人数）

　　・シーモック利用者43名

　　・法人外からの依頼12名

1. 日中一時支援

余暇活動の年間の平均実利用は、1日当たり15.0名（30.6名）

土曜日を利用し余暇活動を行った。年21回の計画だったが、コロナで大幅減の12回となった。外部での活動を自粛し、密を避けるため利用者を半数に分け実施した。緊急利用の受け入れはなかった。

（活動内容）パーラービーズ、扇子作り

　　　　　 飾り作り（ハロウィン・クリスマス・ 正月）

　　 デザート作り（いちごパフェ）、室内レク等

1. グループホーム

年度当初の利用者は、ホームどんぐり4名、ホームたんぽぽ7名の計11名

でスタートした。ホームたんぽぽでは、体験利用を経て11月に利用となったが、1名が利用を終えた。ホームどんぐりでは、宿泊を伴わない、朝夕のみの利用者が、家庭の都合により12月に利用を終えている。

12月にホームたんぽぽで事故があり、防犯強化のため両ホームにセキュリティーシステムを導入した。（1月末）

　　　　　 （本年度の体験利用）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏　名 | たんぽぽ | どんぐり | 備　考 |
| 20代女性 | 体験利用13回 |  | R2.11より利用 |
| 20代男性 |  | 体験回数9回 | 体験継続中 |

　　　　　 　（入居者状況）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月 日 | たんぽぽ | どんぐり | 合 計 |
| 4月 1 日 | 7名 | 4名 | 11名 |
| 11月16日 | 8名 | 4名 | 12名 |
| 12月11日 | 8名 | 3名 | 11名 |
| 12月15日 | 7名 | 3名 | 10名 |
| 3月31日現在 | 7名 | 3名 | 10名 |